



詩篇第3巻

詩篇73-89篇の配列構造

詩篇85-88 「主もよみだりにとみまひり」 (偽り) - 怒り神-死 - あはれみ神-生 2018.6.15

主の名とは...  
主は彼の前を通り過ぎるとき、こう宣言された。「主、主は、あわれみ深く、情け深い神。怒るのに遅く、恵みとまことに富み、恵みを千代まで保ち、咎と背きと罪を赦す。しかし、罰すべき者を必ず罰して、父の咎を子に、さらに子の子に、三代、四代に報いる者である。」 出エジプト記 34章6〜7節

86:5,15  
 あはれみ. 生き子 怒り. 横り

86 87 88  
 御名にお救い 命 墓から復活  
 44に 44に 44に  
 44に 44に 44に  
 44に 44に 44に

主の名を呼び...  
あなたのしもべの祈りと願いに御顔を向けてください、私の神、主よ。あなたのしもべが御前にささげる叫びと祈りを聞いてください。そして、この宮、すなわち、あなたの御名をそこに置くと言われたこの場所に、昼も夜も御目を開き、あなたのしもべがこの場所に向かってささげる祈りを聞いてください。  
 あなたのしもべとあなたの民イスラエルが、この場所に向かってささげる願いを聞いてください。あなたご自身が、あなたの御住まいの場所、天からこれを聞いてください。聞いて、お赦しください。  
 歴代誌 第二 6章19〜21節

香壇 Ps89  
 マナとは... マナはパン  
それで主はあなたを苦しめ、飢えさせて、あなたも知らず、あなたの父祖たちも知らなかったマナを食べさせてくださった。それは、人はパンだけで生きるのではなく、人は主の御口から出るすべてのことばで生きるということ、あなたに分からせるためであった。  
 申命記 8章3節  
 あなたの父祖たちが知らなかったマナを、荒野であなたに食べさせてくださった。それは、あなたを苦しめ、あなたを試し、ついにはあなたを幸せにするためだったのである。  
 申命記 8章16節

主のことばは信じておぼえ  
 不承. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. 16. 17. 18. 19. 20. 21. 22. 23. 24. 25. 26. 27. 28. 29. 30. 31. 32. 33. 34. 35. 36. 37. 38. 39. 40. 41. 42. 43. 44. 45. 46. 47. 48. 49. 50. 51. 52. 53. 54. 55. 56. 57. 58. 59. 60. 61. 62. 63. 64. 65. 66. 67. 68. 69. 70. 71. 72. 73. 74. 75. 76. 77. 78. 79. 80. 81. 82. 83. 84. 85. 86. 87. 88. 89.

詩篇85篇から88篇。第3巻の全体の構造です。73篇からがアロンの杖。77篇、81篇からのところに契約の2枚の板。85篇から88篇がマナの入っているつぼ。そして、89篇が香壇である。

このマナのつぼと言っているところが、85篇から88篇です。長さを見ても、この85篇と87篇、86篇と88篇が似ているもののように見えます。86篇と88篇が、まずわかりやすいと思いますけれども、(86)よみから救う、深いところから助け出される、悩みの日、苦しみにあっている中から魂が救われる。こちら(88)も、魂が悩んでいる。よみから、墓から、穴から救われるという共通点です。よみからいのち、救いへということです。

じゃあ、85篇と87篇は何だろうということですが、85篇のほうは、御怒りが留められて、慈しみとまことによって救われて、義と平和というシャロームの状態に戻る感じです。これが、85篇。87篇のほうは、誰もかれもがここで生まれたという感じです。神の都から新しい民が生まれているというのが、87篇だと思います。

ヤコブの繁栄が回復する(85)。ヤコブの住まい、聖なる山の上に建っているヤコブの住まいにまさって、シオンのもろもろの門を愛される(87)。神の都、ヤコブの回復、都が新たにされる、新しい都ということで、シャローム(85)といのち・生きる(87)というように、この共通点を見ました。

もう一つは斜めのほうです。85篇と88篇、86篇と87篇の共通点ですけれど、怒り・憤りが(85,88に)多いです。生まれる話(87)と、こちら(86)が5節と15節に「主は恵み深くあわれみ深い、いつくしみに富んでいる」「あわれみと恵みに富み、怒りをおそくし、いつくしみとまことに富んでいる神様である」というこの言い方は、出エジプト記34章の「主の名」の宣言ですね。「主はあわれみ深く、情け深い神、怒るのにおそく、恵みとまことに富み…」この主の名の宣言がここ(86:5,86:15)に書かれています。主の名、名前という言葉自体が4回あったと思います。主の名、主の名をあがめる、御名をあがめる、もう一つどこかにあったように思いました。主の名という言い方が、ここ(86)に出てきますけれど、耳を傾けて聞いてください、答えてくださいというのが、86篇、88篇にも叫びを聞いてくださいというのがあります。(86に)しもべ、しもべと(いうのがあります)。しもべがよみから救ってくださいと頼んでいる、それに対して答えているというようなことは、神殿で捧げる、ソロモンが捧げた祈りを思い出すわけです。「あなたのしもべの祈りと願いに御顔を向けてください。そこに御名を置くと言われたところを(…その神殿ですね。)昼も夜も目を開いて、しもべが捧げる祈りを聞いてください。あなたが住んでいるその場所である天でこれを聞いてお赦してください。」これが神殿が建てられている意味であり、主の名を呼ぶ祈り、しもべの祈りということなのですが、どちらも主の名を呼んで救ってくださいと頼んでいるのですが、特に86篇は、主の名を呼んでいるというほうです。87篇にも主の名が付けられている民だということだと、ここには名前ということは書いていないのですけれど、神様の民が、ここ聖なる山、都で生まれたと言われていますから、名前を付けられた民が作られているというのが87篇のほうだと思います。

主の名の宣言のところから考えると、御怒り、激しい怒り、憤り、それによる滅び、死から救われるという話(85,88)と、怒るのに遅くしてくれる(86)、怒る神様なのですから(85)、怒るのに遅くする。これが、あわれみ。あわれみの神様である。あわれみによって生かされるということが、86篇、87篇の共通点だと思います。

神様の名前、それは怒る神様である。神様の名前、それはあわれむ神様である。怒るのに遅い神様である。死をもたらず神様であり、いのちを与える神様である。主の名を偽る、主の名は無駄だと言っていることは、裁かれるわけです。神様は必ずさばきを行う神様である。あわれんでくださる神様であるということを知っているようにということが、このマナの天からのパンで教えられているところです。「人はパンでだけで生きるのではなく、人は主の御口から出るすべてのことばによって生きる」ということを教えるためにマナの話がありました。申命記8章にあります。「苦しめて試み、ついにあなたがたを祝福するために、」この天からのパンの話がありました。神様のあわれみのことばを信じるならば生きるということを教える。不平、逆らう、つぶやく…そういうものなくてということを知って教えようとしておられるところです。そのマナによって教えようとしておられるところが、「主の名」ということでよくあらわされているものだというので、この第3巻の85篇から88篇の役目があると思います。真ん中の板の話の中にも十戒の3番目、4番目の話が出てきますので、このつながりでも見ていかなければいけないということです。